

特安事業場の診断指導事例

労働安全衛生コンサルタント 石田 修

1. 事業場の概要

依頼のあった事業場は明治20年創業以来大証二部に上場されている溶接金網、鉄筋金網等を製造と販売を行う会社で全国に7工場あり、愛知県額田町のこの工場は中部事業本部の拠点工場として従業員41名ではあるが、残業の多い元気な会社である。

2. 依頼の経緯

平成11年1月死亡災害があり、その年の特安事業場に指定され愛知コンサルタント会の名簿を見て当方に顧問としての依頼があった。

3. 安全衛生管理上の問題点

過去3年の災害発生状況を表1に示した。

表から、ケガが頻繁に発生している訳でもなく不休災害もここ3年は無いという状況であったので、これは年間計画を樹て、安全管理体制も確立し、全員参加型の安全活動であるのかと思い、いろいろ問い質してみるとJIS工場なので品質の管理は一生懸命やりましたが、安全衛生は全くそれらしいことはやっていなかったとの返答であっ

た。

また、死亡災害は材料で入って来るコイル線を一旦高速で巻取る伸線機作業において作業者が接近し回転体に巻き込まれて即死状態で発生したものであった。

安全活動を疎かにしていても無災害の幸運があるかも知れないが、ラッキーはそんなに長くは続かないという典型的なケースであった。

この会社の安全衛生上の主な問題点をまとめ下記に示した。

- ①安全衛生管理体制がなく運営もない
- ②安全衛生推進者がいない
- ③安全衛生について何をどう進めたら良いのか分からない
- ④事業部制なので本社からの安全衛生に関して指示連絡はない
- ⑤資格を取らせる講習は行かせているが安全作業教育は実施していない
- ⑥機械設備の安全化がひどく遅れている
- ⑦通路の確保や作業床周りの安全化が出来ていない
- ⑧防じんマスクや耳栓の着用が見られない
- ⑨就業制限業務に対して無資格者が就いている
- ⑩社員の安全意識が低い

このように大変気の重い課題がたくさんあった。

4. 診断指導の内容と改善計画

指導や計画を作成するにあたり、会社には基本的な考え方の摺り合わせを行った。

(1)上場企業である将来を見越して従業員が50人以

表1 過去3年の災害発生状況

	平成9年	10年	11年
死 亡	0	0	1
休業4日以上	1	0	0
休業4日未満	0	0	0
合 計	1	0	1

上いる会社として体制を作る。

- (2)これまで殆んど安全衛生に投資していなかった
ので改善資金を十分用意する。
- (3)安全カバーの設置をはじめ施設面の改善は外注
にしないで腕のある保全マンを1名確保し社内
で実施する。
- (4)地域センターの共同産業医の選任事業に参加す
る。
- (5)当方の出す宿題及び月例の実施項目は必ず消化
する。

この考えに基づき問題点を自問自答させ、当方の問題点を加味させながら改善計画と一緒に作成した。

主要内容：

- (施設)
- ①安全通路の確保（４作業場とも）
 - ②安全カバーや安全柵の設置(41ヶ所)
 - ③昇降階段の手摺りの設置（15ヶ所）
 - ④操作盤の位置の変更（８ヶ所）
 - ⑤非常停止ボタンの取り付け(13ヶ所)
 - ⑥天窓の設置と照明装置の追加（２作業場）
- (教育)
- ①主な10種類の機械の作業手順書の作成とこれに基づく操作訓練
 - ②無資格者の資格講習への参加
 - ③当方による安全衛生教育（年６回）
 - ④事業本部長の経営者安全衛生セミナーの参加
- (管理体制)
- ①安全衛生委員会の設置と活動
 - ②管理体制作り，各種規程作り
 - ③機械の点検の要領書の作成と実施
 - ④現場パトロールの実施（毎月）
 - ⑤推進者と当方による重点実施項目の推進状況の確認と課題の整理

この他にも課題はあったが消化不良になることを避けた、当面はこれで災害は防げるのではとの考えで計画した。

特に苦労したのは工場の細かいレイアウト図が

ないので当方が作成したが第一工場 1 F (図 1 参照), 2 F, 第二工場 1 F, 2 F の計 4 枚は大変時間がかかった。

また、安全衛生委員会 6 名のメンバーと当方の計 7 名でのパトロールも何が、どこに問題があるのか分かって貰うまでに時間がかかった。更に粉じん、騒音、照度など作業環境測定も実施したことがなく、これも当方が行い委員会に報告したが、耳栓や防じんマスク等の保護具は当方の衛生教育が済むまで着用して貰えなかった。

上記の苦勞の他にこの会社の安全活動は朝8時から開始なので安全衛生教育やパトロールや委員会などに間に合うよう朝6時半には出発という日が月2～3日あったため朝の弱い当方には苦痛であった。

5. 改善の効果

6月から本格的に現場に入り込んで作業者と接しながら計画を進めた。その結果どんどん現場が良くなって行くのと、集合の安全衛生教育を対話形式で行ったので当方と管理者を信用してくれるようになり、口の重い作業員も当方が現場を巡視していると、挨拶もしてくれ、何かと話しかけてくるようになった。

保護具の着用はもちろん、整理整頓もやるようになったし、何よりも作業員が元気になった。

委員会のメンバーのパトロールも視点が養われ、10月時のパトロールでは当方も見落としていた不安全状態や不安全作業の指摘にビックリすると同時に嬉しくなった。

当方が苦勞して作成した現場の図面をパトロールには全員持って図面の中へ気付いたことを書き込んで委員会での討論資料にするので場所や設備がすぐ分かり、話が早くなった。

「先生の1時間の講演を聞く度に段々と素直に保護具も付けるようになったし、作業も慎重にやるようになったし、何より機械の手入れや道具の片付けをよくやるようになりました。教育の効果は大きいですね」とは管理者の弁。

当方が参画して以来1年5カ月になるが現在ま

で不休災害も含め0災害が継続中である。もちろん指定は解除され、労基署長自ら改善の確認に来た。

6. おわりに

早朝に出発しなければならないこの会社には何

とか自力で安全衛生活動を行って貰い、今年4つ目の公職を受けざる状況になって更に忙しい当方は3月にこの会社を卒業させて貰おうと頑張ったのが裏目に出、結果として指定解除後も顧問契約の継続を言い出され、現在も残っている課題に取り組んでいる。

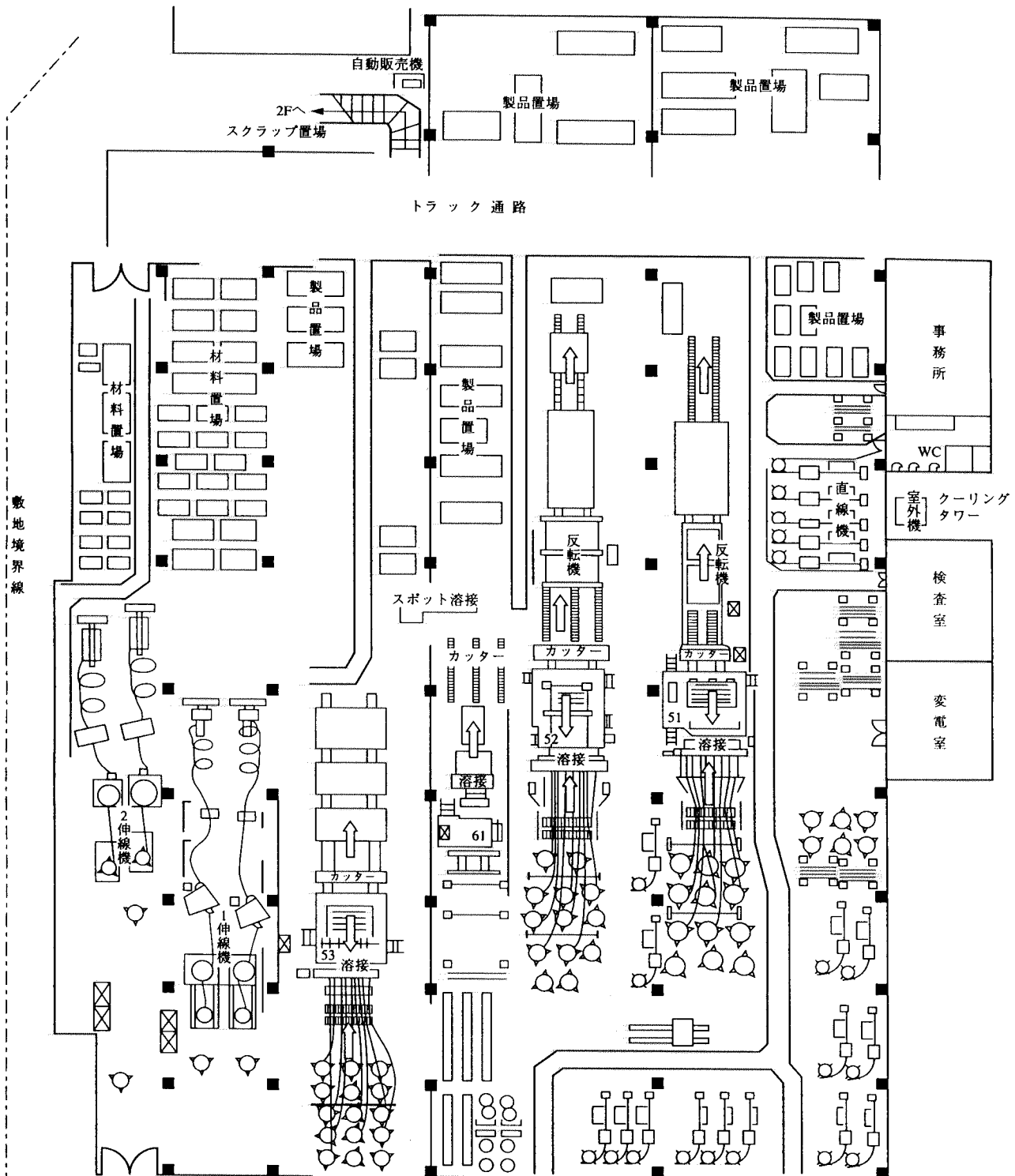


図1 第一工場1F